

核実験直ちに禁止を

科学者京都会議が声明



発表に先立つての会議に出席した湯川秀樹博士ら八人。署名参加できなかった八人も

衆知集め平和探究 科学の誤用を強く戒む

【京都】「果てしなく続く核兵器競争時代のいま、日本人はなにを訴え、またどうあらねばならないか」をテーマにわが国のトップレベルの知識人が参加、京都・膳野の天童寺で開いた科学者京都会議は九日後、三日間にわたる研究、討論を終え、別項のような声明文を発表した。この声明は世界で唯一の原爆被災国である日本がその知を結集し、自然科学、人文科学の立場に立ちあがり、戦争抑止は平和に逆行するものだと六項目にわたって訴えている。

発表に先立つての会議に出席した湯川秀樹博士ら八人。署名参加できなかった八人も

署名を求め、米ソをはじめ、各国にも呼びかける。

この九月、ロンドンで開催された「回バグワッシュ会議」のメッセージについては湯川、朝水、坂田の三氏が声明文にそって小委員会のかたちで検討、まひもめ(以下)になった。

署名者、賛同者次の通り。(敬称略)

○署名者 湯川秀樹(京大基礎物理学研究所所長)、朝水敏一郎(東京教育大学)、坂田一(名古屋大学)、高沢俊(東大名誉教授)、都留重人(一橋大学教授)、桑原武夫(京大人文科学研究所所長)、三宅泰雄(東京教育大学教授)、大仏次郎(作家)、谷川徹三(京大名誉教授)、田中(立教大学教授)、田中(立教大学教授)

声明文を発表する左から合川坂田、一人おいて湯川、朝水、桑原、三宅、大仏、福島の各氏

点で意見の一致をみた。

一、科学の発見した世界に内在する真理を、人類の福祉と平和に

c092-015-019

つちわ扇子和紙橋
日本
07233801

の核戦争のために科学者を含むすべての人が、科学の成果の誤用、悪用を防ぐため、ふんばる努力を続けねばならない。

一、戦争がもたらぬ国際間の諸問題解決の手段となりえないことが認められていくにつれ、なお核兵器の威嚇による平和維持という根強い主張があるが、これはむしろ戦争誘発の危険を増すものである。

一、放射線物質が遺伝的、身体的障害を引き起こすという点から、またさらに重要な問題として核兵器実験が軍備競争、国際緊張激化、

核戦争の危険の増大をもたらすから実験禁止協定の一日も早い締結を要求する。大気圏、水中など容易に探知可能なことが認められている実験はただちに禁止されるべきである。

一、真の問題解決は核兵器を含む軍縮、さらに完全軍備放棄の実現以外にはない。厳格かつ効果的な国際管理の下に、核兵器運搬手段が廃絶され、他国領土内の軍事基地撤去が早急に実現することが特に望ましい。

一、軍縮と経済との結びつきについて深い見通しを持つべきではない。しかし軍縮に伴う世界経済の構造的変換には多くの問題があるので、日本でも長期的立場に立つしつづかな検討が必要である。

ある。

一、戦争と軍備競争の時代を終え完全軍縮の新しい平和の時代を作ることは、全人類の歴史的大事業である。政治、経済、科学、思想、宗教などあらゆる領域の人人が衆知を集めて真剣に研究、検討することが望ましい。

をつくることは全人類の歴史的大事業である。政治、経済、科学、思想、宗教などあらゆる領域の人人が衆知を集めて真剣に研究、検討することが望ましい。

変圧器・溶接機
大阪変圧器
大阪・東京・福岡